



門口 9
3585
卷 5

高小

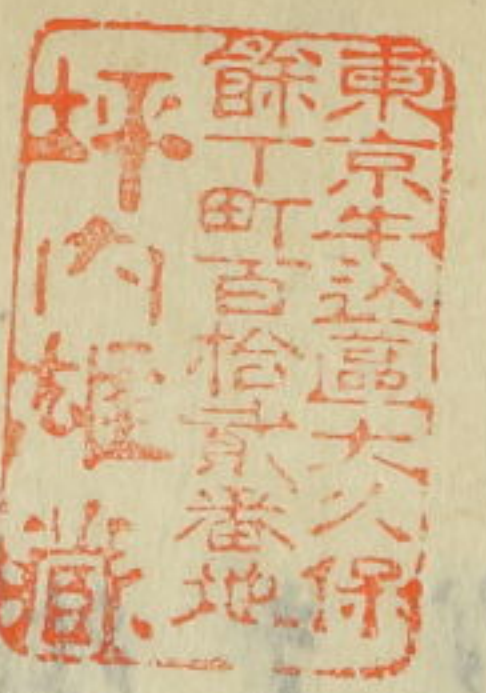
高小
高小
高小
高小

慈母嘉言と目錄

- 一 四季花鳥につけてお持ちやうにせよ
- 一 常と愛せよ 付リ 善妙といふ女は度
- 一 富貴をうらやまむとせよ
- 一 おをうらばば身とつとせよ 付リ おとことと
- 一 一年中居伸んお持ち九ヶ條の事
- 一 伽羅のり 付 益香まきおれ
- 一 天地人類五倫の事
- 一 慈母の娘七人六ヶ條長幼の事 付リ 二人の添一人は嫁言ひせ

部イ門
355
卷 5

明治二十六年十一月五日
坪内雄蔵氏寄贈



慈母嘉言上

けまればかの女婦れまゆをーなるまのたぢにいひて
まゝとくありー我婦まにをー(まゝとくまゝ)り
しを女婦まゝとくありてつがとーににぞとまひ
まふまゝなりいま又由居のまふぞとてぞこれ
かみにならふ

まの母まのいとちなくおりーませーとれいひてまの
いましめませまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとく
まゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとく

春ハ辰をありまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとく
秋ハ虫乃まにんをませまゝとくまゝとくまゝとくまゝとく
まゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとくまゝとく

ちれり理をうんごはらんごもははるづつらの情もぞう
つとく仁のたごけとならりのありんときてんまごば冬
の意乃れともおり移しんとそつとつよひのいなる
事もおりのまさごうたごんづらんくとあへた松のり
結風のそんくともいごあつるにそとてたんれ名
づけるなりらんらうと鳴はれまなり法除れ鈴とら
おとつる書にゆれなづけさるるるへ古んれ名付さ
もいりりと松ののひれとむらじの鳴書とあご
れまの鳴さしとてあへた鈴れ結つらとつづつとひ
きりとおりのおり又の時にんてあごのひなくも何
なくおられよそをいさうへりむじとらもさご
おりのあといえはおり移し移しれまごらつとまご

うとあわさるるれゆい何さ番とよと味と何
しれあらひとあはけ喰もあんとけさる人のま
甲いんとつけさ移りおるおとらうくとんご
けいおりのうとつむせにんくとなくは結書と
とまじしをままといふれ御耳やわら松風のちん
ちありと鳴へさるる甲のまんとのまごいご
しとらふとくらくくとんあひひらつもおもあつさ
あつあつとらまごばとそやごれ結書とつらつと
かしとらふとさつとつらつとつらつとつらつと
つてつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
お人のつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

つんが人のほびぎやうらなひ人のかふ
ぢやとあつてかたがへ人にならぬ
こゝろをひらきしめられけりおぼいづもおぼれん
比しうそれをもゆたうおぼり又
けもたれたつこれおのびきにけりゆすふがま
まうらぬ切らうこたうけんをりておんれんとし
りり心とつけ給へてす給く申くけり一海一清
細きもいさうおのりおぼいづのびらほいづ
のこゝろを申しおぼりたどく一れとこ
つけいん何んらせん
まけおのあつ田にあつとまうけいおの田れ
けいなくあつのこけりけりけりけりけりけり

をす給くあつれん
夢山のおのすおれん
ゆげおとりて輝とさう給く
ゆいづんておれ人の心ほいづ
おろおとあつとわらうらにも
まーとおろひがうらうら
らかーうまーうらうら
ありてせううらほいづ
しかあーとらうらひ
もあつかーうら一けい
んあつ人いゝあつ
ものあつとらうら

ふと驚いて——もまるともあつて、こゝろに——と女おりのと
色とりむ——とかが——とねにおしひ、居が何れお
りうごぞと、いひたりあつて、このあつて、つら
し、のまろやむつ——と庭の落葉あつたと、ひら
らにひらひら——とく——と花となつて、ひら
もとりあつて、さう人れと、あつて、つらとく、こゝろ
とく、色とりむ——と驚——と、もまるともあつて、
あつて、さうと、いひて、さうと、せうと、せうと、
ありんか、あつて、れもの、いひて、さうと、もまるともあつて、
登をも、さうと、性をも、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
んとなりと、むら、人、いひて、さうと、いひて、さうと、
登をも、さうと、性をも、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、

ありておこの人、賢といふは、さうと、いひて、さうと、
おは、人

都、は、昔、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
つらとく、あつて、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
幸、も、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
磯、に、人、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
かり、も、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
あつて、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
つらとく、あつて、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
わ、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
懸、も、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、
あつて、さうと、いひて、さうと、いひて、さうと、

まゝのまゝとやらしくしとられ一人と分んぞ
とてあれわたりとせし判(おま)仁をすて人とすし
わおのこ(おま)坊につとと業の死たきにしく鳥(おま)とら
らうしく我(おま)とあるらぬともしんとはくして蓋(おま)かた
に骨(おま)をわ女(おま)はうらに懸んとすくともうらうらと
しくふよおとらぬわしをすしまたもたて雅(おま)樂
のあそびともあそびせむいつりれ神(おま)ともゆあす
ふ(おま)すこれ何(おま)のさあぞや(おま)りともく(おま)るし(おま)じ(おま)かり程(おま)
伊(おま)川(おま)とすくし君(おま)子(おま)れ(おま)あ(おま)とむに若(おま)而(おま)爲(おま)美(おま)官(おま)一(おま)不(おま)津(おま)
也(おま)と(おま)ら(おま)ま(おま)も(おま)お(おま)が(おま)ら(おま)と(おま)ら(おま)な(おま)ば(おま)め(おま)の(おま)下(おま)れ(おま)情(おま)と(おま)あ(おま)ら(おま)ん
お(おま)し(おま)や(おま)り(おま)ま(おま)け(おま)も(おま)ば(おま)天(おま)地(おま)万(おま)物(おま)盛(おま)衰(おま)と(おま)あ(おま)す(おま)ら(おま)ん(おま)女(おま)昨(おま)
も(おま)け(おま)も(おま)い(おま)ご(おま)が(おま)せ(おま)お(おま)と(おま)せ(おま)して(おま)か(おま)れ(おま)よ(おま)と(おま)お(おま)と(おま)ち(おま)を

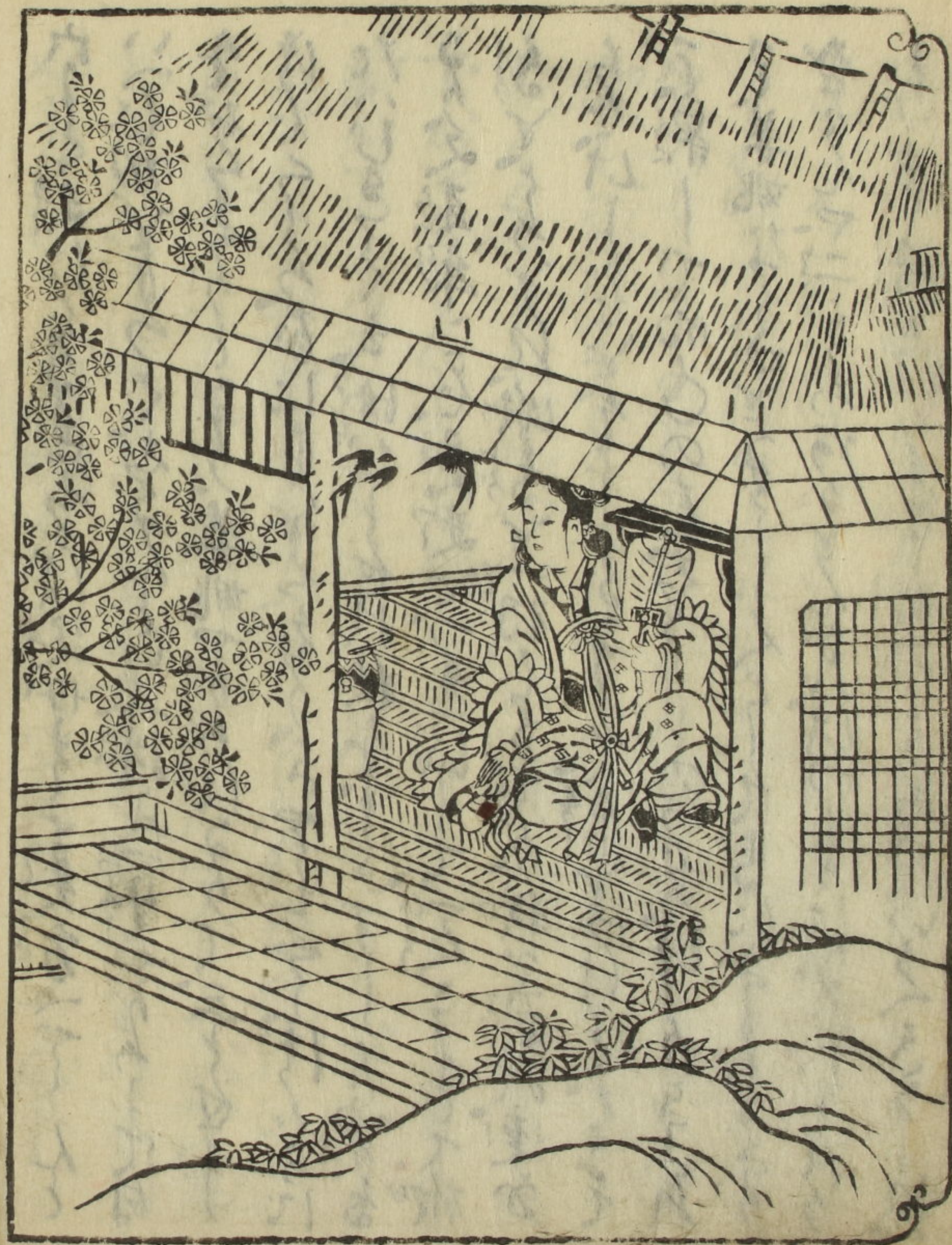
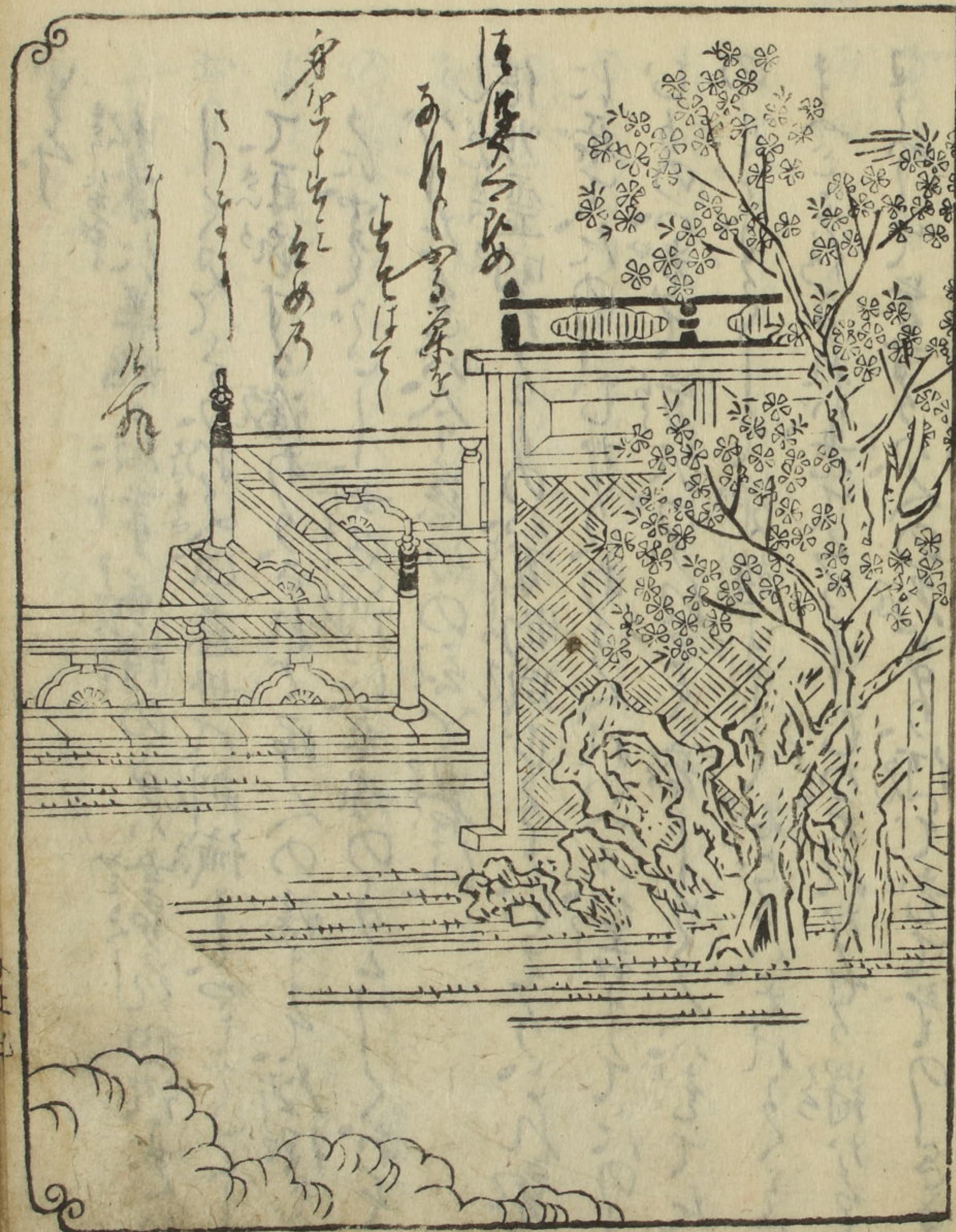
ほり色(おま)い(おま)大(おま)山(おま)と(おま)か(おま)も(おま)と(おま)す(おま)に(おま)あ(おま)ら(おま)い(おま)く(おま)に(おま)お(おま)ご(おま)り(おま)こ(おま)ち(おま)り(おま)て
あ(おま)ら(おま)び(おま)く(おま)や(おま)ぐ(おま)も(おま)も(おま)と(おま)お(おま)と(おま)も(おま)せ(おま)お(おま)も(おま)い(おま)ら(おま)れ(おま)を(おま)あ(おま)り(おま)と
ら(おま)う(おま)あ(おま)り(おま)た(おま)と(おま)は(おま)じ(おま)つ(おま)す(おま)一(おま)れ(おま)中(おま)に(おま)宰(おま)人(おま)の(おま)あ(おま)り(おま)に(おま)合(おま)力(おま)
と(おま)せ(おま)ま(おま)は(おま)し(おま)く(おま)お(おま)り(おま)ん(おま)も(おま)百(おま)と(おま)と(おま)あ(おま)ら(おま)ん(おま)の(おま)い(おま)ち(おま)か(おま)に(おま)て(おま)ぬ
ぶ(おま)し(おま)た(おま)と(おま)富(おま)貴(おま)す(おま)く(おま)ま(おま)や(おま)し(おま)と(おま)い(おま)と(おま)も(おま)懸(おま)く(おま)ら
ん(おま)よ(おま)今(おま)報(おま)が(おま)ら(おま)ん(おま)は(おま)先(おま)と(おま)ら(おま)づ(おま)ら(おま)ま(おま)ひ(おま)ら(おま)り(おま)ん(おま)ぞ(おま)ん(おま)あ(おま)ら
と(おま)お(おま)り(おま)ば(おま)あ(おま)れ(おま)人(おま)の(おま)財(おま)と(おま)れ(おま)業(おま)物(おま)と(おま)あ(おま)ら(おま)り(おま)富(おま)貴(おま)た(おま)ら(おま)ん(おま)
は(おま)ん(おま)も(おま)お(おま)よ(おま)り(おま)ぬ(おま)福(おま)貴(おま)と(おま)と(おま)も(おま)ら(おま)う(おま)り(おま)ゆ(おま)り(おま)ん(おま)は(おま)せ(おま)や
わ(おま)さ(おま)し(おま)け(おま)ら(おま)し(おま)と(おま)せ(おま)は(おま)ら(おま)れ(おま)ら(おま)も(おま)は(おま)福(おま)の(おま)一(おま)あ(おま)ら(おま)り(おま)も(おま)
ら(おま)れ(おま)ば(おま)ら(おま)し(おま)と(おま)ら(おま)ん(おま)と(おま)お(おま)り(おま)六(おま)人(おま)情(おま)り(おま)ち(おま)ら(おま)は(おま)或(おま)人(おま)
の(おま)ま(おま)に(おま)た(おま)ら(おま)し(おま)と(おま)あ(おま)ら(おま)ん(おま)ら(おま)あ(おま)ぞ(おま)や(おま)れ(おま)に(おま)あ(おま)ら(おま)も(おま)印(おま)に(おま)り
め(おま)あ(おま)ら(おま)ん(おま)と(おま)い(おま)つ(おま)ら(おま)げ(おま)お(おま)ら(おま)う(おま)る(おま)も(おま)と(おま)ら(おま)ら(おま)ば(おま)約(おま)文(おま)乃

燈籠にきくぬがらるんこどぐりわらるるふ白根又
 の柳足の二三七も何のさういふん何れいやだ
 志の松の葉がなりぢらる人いふのこもやまはくすと
 あり給り人い何よりも志をうまうしこまうしそれ
 もおろりがさく千壽や又の兼増増れきくひ或の
 衣服もくも人いぬまならんすとするしも人
 情とあるありけんからこの宰人よりなりらる事を
 色があらず或いおは子にもあらず代れれ祿をはぶ
 又の冠冠り後善の下けぬと流に銀銀とあら
 祿が其人の幣よあらはしとりる也と一のふ章に
 飾すやとさとも卯なりも来乃有なと何んよ
 不いれも信もし者いらりにあらはしととくさらず

びよとくなや宰人のののにりよづこのにあらぬ
 ども人情をあらずたとくあらずつれ益なれがあらじ
 飾り又とらづり下乃情とあらぬもあらじい中
 とい女れ事にむもくくあらるもこまさかり一章
 これのおのもむびうららとうとおひらてん
 人のうともおひとかついゆされぬもいしもあらぬ
 いしで若あせ一章つりにあらせりせあも
 ぬもいらくとしてあらぬ人いらるをくふ
 十ものうといに一とれも葉花ははらりてあらぬ
 じしる人のなさなれとあらぬいやしいんふりふ
 と欲んあらりとれり日にもどりにひうされてじ
 一とつとあらるんぬんいらのりをあらぬ

どのそらにのこる海ありてうらうらとありくが是も
 とと見えぬはけしむづらたうとあやまらうらうらごと
 一かのこがた性あうね女も果仁のつこはりりてまも
 をうらうらあやとあうねうらうら一こもみかあま
 増く愛あうらうら一こた人のれよこたり愛よ
 あうらうら一こ負債よふは命に難よ命どもらうら一由
 ずんぞあうらうらて天命よあの一じよをを愛う
 病もよあありと云いよんやあにあうらうら一う
 ぶづ一文王の美里といふようらうら色なれ終におか
 一うらうらうらうらうら一こ終りずして男傳
 と云うらうらうらうら一こ又女もく愛よをせし
 人よはじ一美姚と云婦人の十五女ありて嫁一十

六うらうらにのこるあうらば父母まうらあうら一やうらんと
 いむのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 をわらうらうらうらうら美姚やうらうらにありて三とせし
 けむらうらうらあにうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 たいじよとくえあうら一とせれ杖をまうらうらうらうらうら
 らん父あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 一果してのののまあうら一のつらうらうらうらうらうら
 ら美姚なうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 ぶらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 一うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 一うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



いはず

松葉に姜姚うぬ事并侍のよめ女房花物依よハ
一くつてくらおまじ慈母れ訓誡もやごごく一
て再嫁する漁ありさんど婦人の痛よそなほき
うんまきごし一女子訓に再嫁のよめりくわを
づいたまご今慈母のよと器に

信順靈明なりりの方物成じるといそりこれ愛
に居てたのむむかりあうくれいつるハ着してたの
じりのへ巻て着ひつるにさ器一うう人の巻てた
の一とよく一して榮耀一しておらるハ天れよくと
まよこはるされが老てらる一むハ天れなせる罰なを
こよして着するハ人の巻る何ぞ巻てその一とよ

かきんや

一 傾初しも人の家妻からと見てさるも縁がゆきま
家妻よりしてとらさる一とハ人れ巻るそれた
一はありまぐ一とて上落一とハ人のかりあさ
とらるり家妻にさるもむすぐ一とさるもい
ぬハとらさる一とらるそれバ古人れ批判にも
葉に殿だくり一とらるむとハ帳けし一とさぬ
の巻るもむすぐと一とてふとらるもむすぐ
あよハはらさるつら一とさるもあう人もすじなを
おりよまたむしてさるもさるもさるもさるも
むささるいさむむとらりてそれハと一とこれハ
きらとれ人のとら一とかなるゆかりげよとむわらむ

ちねべさうらでせんまこわいぬのたぞそたよ
たうまこ板間のあつきも月のぬいやりらん物
いじろとろししきしきとどらしてあまこる
えろよりもてるやちひをとりてかろこころの髪
も齒もかんだぞこそいすしんとおりのまおひ
の卵にいじろくくつれむはれそくくく
あまみかやせやころおひあがりたるくも
ちもさくかりさくさくむじろく若にも花の咲り
とろくくくくくくくくくくくくくくくく
山にちくくれ一本もさるやうに咲うとどろく
かろんとこころおりげふさもあつたかろく
ほりてうれくもわりくも命のうろく他を
とにもくにもくくくくくくくくくくくく

- 一 へんはろりび分とつるはくくくくくくくくくく
- 一 きは衣装換ドも是はくくくくくくくくくく
- 一 もけふくくくくくくくくくくくく
- 一 へんはろりび分とつるはくくくくくくくくくく
- 一 ひろかかどめさたましと紙をやとめく筆くくくく

一 夕飯ちまは又茶を飲ぶぞーんちのふりーくもゆふ
 さびさみりぐくつとれさうとつひつひなまふー一那
 一 茶とつらむさうてもんもあまもてもされ細
 なりともちのさうあそびにふとちさふー一
 一 八月に一月六日一房のせんざいおくわむみゆ
 一 夏れ来い蚊よくつきてらー蚊をたもあつせぬ
 ちりあつせぬさうさうーなれぼれもなりさ
 ーしとくもれきとひいさとぐりせじつー一あさりす
 ぢみぬく蚊帳れら入浴すー
 一 秋よりその来いおーぼるるどろそびとれとて
 新見給かお賜あつせ文に礼拾枝香かあそびゆか
 六かりさうーくしてと路ーはさす女のあさうさ
 ー

一 暮ささささーあささささささささささささささ
 一 春の来いさうとらり冬れ来い九つとらりやとさ
 ぬー一永春をまねば下女らうー一むかり
 一 いよけるれ思ひあいらーれおさりぬのたさひ女抱
 わらさまのさうさうさうさうさうさうさうさうさ
 一 りてあそび物とさうさうさうさうさうさうさうさ
 ー

一 伽羅をたくもよれとハタシテ
すべからざる小神にハヨリ
こゝろにハタシテハ小神と
あつてさう小神ハハタシ
け書あつてハタシテハ
みづりやうとハタシテハ
ニツもウツとハタシテハ
あり

一 たりりの書れにハタシ
ど梅花思方ハハタシ
氏も流をやく目文の尼にハ
梅花も書れ香にハタシ

想はけりハハタシハ
大御くハハタシハ
るれどもよらハハタシ
ハハタシハハタシハ
昔ハハタシハハタシハ
ありセハハタシハハタシ
らハハタシハハタシハ
ゆらやハハタシハハタシ
好しハハタシハハタシ

四うとハハタシハハタシ
しとくハハタシハハタシ
ふりらハハタシハハタシ

夫のをり一とある一ゆる
 私業に女子例減核の上上げさよららしく
 下らさ下らさめさききいさ一とくせは
 しばさをもといひ下ららものさうこら
 けいさ一とさよにさういさとあきさ
 さきさの又けこくといひとあとのわら
 ことして法海なると上宿おののさ人
 一とゆるさうに今慈母女婦の赤さ啼呼
 賢なるるね

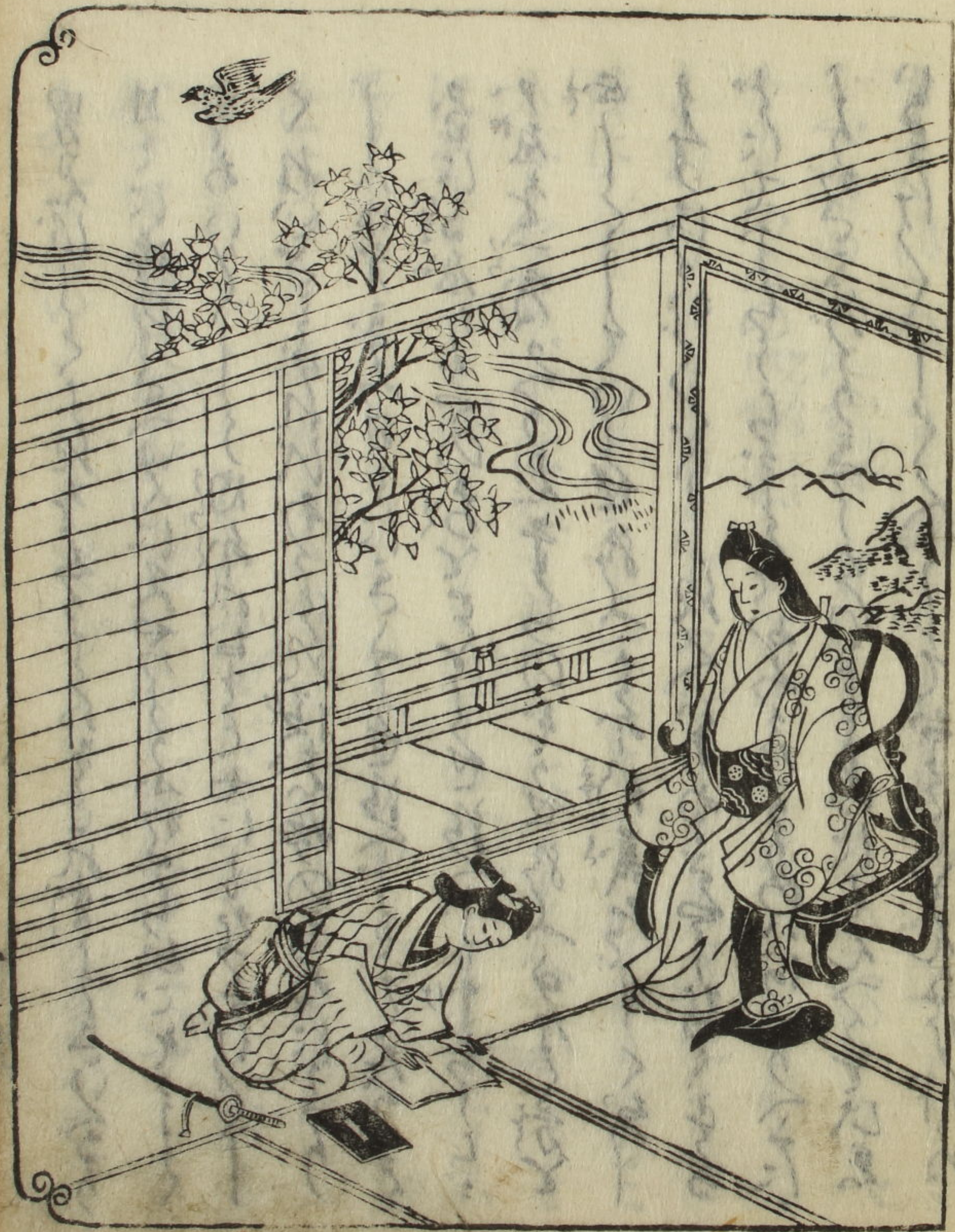
一 夫の父なり鬼なりまなりあなりさるり地父母なり
 妻なりおなりあなり九倫をささるりの天地
 るりき一をなり父なりえなりあなり妻の母の臣

ありありあなり人の八倫をささるりの八夫婦なり
 故に武王の戒は九倫あり十人のこと書とににきよ
 終ひ小孝よ八夫婦礼なりと賓主のことと一
 二を女にぬと一と他持なり一も妻と妹と一
 かり是兄弟にかなと一と他信なり故に聖人も
 婿礼の百世のりり人倫ののわかるとのささるり婿
 と八妻の父母なり婿と八妻の父母なり初て交むむ
 つま一にゆは合て婿婿と八主婦中一とささる
 と礼なりと八妻の徳あり礼に主人の徳ありい
 より婦人の徳と信といひ礼といひ貞といひ婦と
 信はまことと一といつりかくと切と大切にしてさ
 なくま一と八夫婦徳ありは徳ありと一と一と

やうにうらうらひおちとちうとちうたつていさむを
信と云も朋友をせああやまらとせはるにおたド
唯あつてふとふみとまにけうにさうらつてふと
よくすまのつとにせもせむず又やうふお月が
由一とよなくんらうらうはふまうなるなり
にあつてふにおたド身へささうともふたドれ
ととらうらやうらふらうらうとくせ教ありて
帯れと帯のせうはうらうはうらうとくく
ふらうの心にうらうらうらうらうらうらう
づとらうらうらうらうらうらうらうらうらう
一なまよせとらうらうらうらうらうらうらう
のたにうらうらうらうらうらうらうらうらう

とらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
につくは貞女あまにもみえむとてうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
らんおげれわらうらうらうらうらうらうらう
アかて親とつてふとらうらうらうらうらうらう
のほけいおまにせもらうらうらうらうらうらう
といさずとてかんぞやひぢり賢におらうらうらう
けにうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
うらうらうのゆらうらうらうらうらうらうらう
そとらうらうらうらうらうらうらうらうらう

一そこれ一の婦はうらうらうらうらうらうらうらう



下からさういふひきあしはあつたのうらめいさあつたのう
 ちのうらめいさあつたのうらめいさあつたのうらめいさあつたのう
 いんげいさあつたのうらめいさあつたのうらめいさあつたのう
 をあつたのうらめいさあつたのうらめいさあつたのうらめいさあつたのう
 下からさういふひきあしはあつたのうらめいさあつたのう

男見びくくをあらうそこれ頼りて
目に姉の〜世に又うらふからごせが
くわい〜内かおと世にもたさけく
〜ハハオム日〜にさ〜世法どもくたう
おに^しをなごのおと〜世法〜せなから
ハをを〜つら見えすらのぞをせ法〜ゆなくか
〜〜く〜し〜世法〜不^ふ義た〜く
あすはるの〜く〜人にあわ〜なく
だてで〜ら〜ら〜めあつたらぬの〜ありた
よりの〜ら〜ら〜めにあ〜といえ
いさ〜く〜く〜てお〜といさなけ

もくはあ〜一頼〜く〜法^は法^は〜
〜が〜い〜人〜ん〜は法のの
〜の法^はの法^は〜く〜せ法〜ば
くあわ〜〜〜〜〜〜ん〜は法の
姉に〜ら〜ら〜ら〜ひてせ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜どわあ〜下に人〜もあ〜〜に〜ら〜人をお
にさ〜ら〜〜〜ら〜は丁^はの歌人〜みせ〜
せう〜に〜〜〜〜〜〜あ〜〜とた
色法〜〜姉もま〜わ〜り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
ゆもわ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
だ十は又娘^はれ^は男子^はい^はぐく^はのハをにゆれい
めとあ〜く〜〜〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

用ひのきりてはさうさうとていふもさうさうにさうい
がさうたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
まへーいおまげけんせうさうさうさうさうさうさうさう
まゝなまはほがてふせれさうさうさうさうさうさうさう
の産の下よりもまゝ風乃さうさうさうさうさうさうさう
花のことさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
まんとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
なむ

一三の啼はさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
にみだれておほらさうさうさうさうさうさうさうさう

一四の啼は上揚したさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
なるとさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
れらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ちれりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
教さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさう

一五の啼は二の啼はさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
して原氏おほらさうさうさうさうさうさうさうさうさう

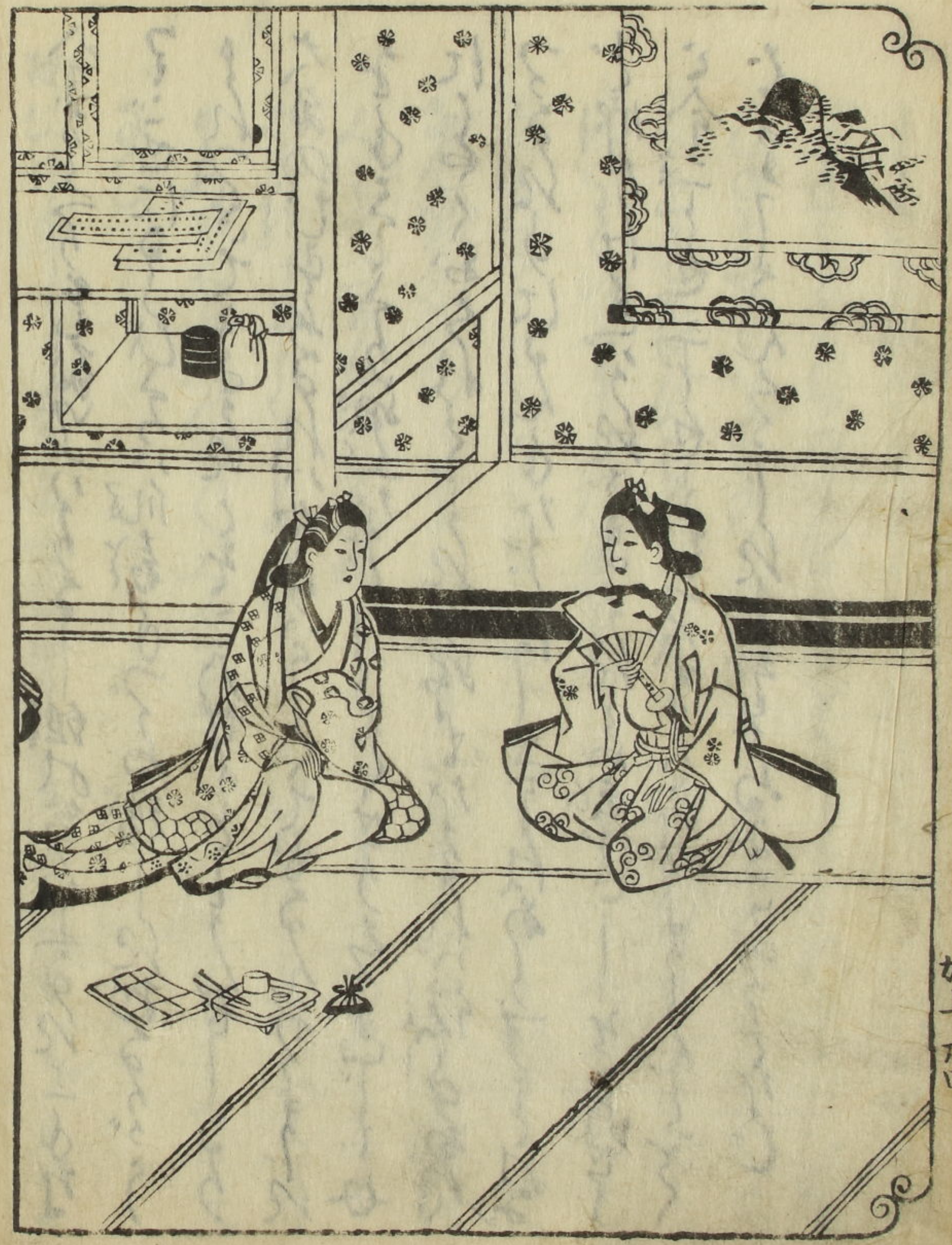
了してこそとにありなればのりくればも縁せしう
 調子乃らとねるや女らうらうらにこそあり新ぶし然も
 ニつふら上よしてゆるんは素もにやーさら
 び女すの七夕の女にもおとくー教ぬるのりあめこ
 もおよぶと兼用たしの中へれすもくものづら
 うまもつら自いせされと人よ下知となすもや瘡
 こころと機ぬくろどくー室に人の心付く事
 けりまもりのゆるんは縁せしうに流るりうらう
 くとさいりかものいけりどくーしねはあつひくも
 敷のこもくもこのはれはあつおらうなる人より
 見らうれたすげさくともあつわうけ姉の天然上
 着ーるれいも遊さーむおれ人の婦人うてても



がおれめの妻とくても蹴がれたは姉さる梅の影
 を柳の糸にうつーうらうらやせんおんた志の用と
 おもいげその中へにあらはら

一六の姉の如良の思ふなれらうの心して用とま
 てなりわりのりからうはあつとれらう天候あつら
 としけ付しおるはあつとれらういふはあつとれらう
 こそくねたあつとれらういひてあつとれらうにお
 しくあつとれらういひてあつとれらういひてあつとれらう
 おたうらー

一そこのいひてあつとれらういひてあつとれらういひてあつとれらう
 いひてあつとれらういひてあつとれらういひてあつとれらう
 おたうらー



しんすい げんくやの目しんすい せんとくしんすい せんとく
んすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
も其悦よんさる 細眉の善くつるすくすくすくすく
てまげ月つつしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
たげんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい

もさうくしんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
その力をんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
孫をんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
をんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
ひすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
にぬすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
りり げんすい げんすい せんとくしんすい せんとくしんすい
げんすい げんすい げんすい げんすい

ありてはくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 らうてはくつろしゝ
 けしむもちしこの姉れむもちよはしてありてはくつ
 らうてはくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 この姉のなにしあつりたるはよ敷むるまは
 くのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 つれにちかむるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 たよ敷むるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 よ敷むるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 えくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 らうてはくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 けしむもちしこの姉れむもちよはしてありてはくつ

けしむもちしこの姉れむもちよはしてありてはくつ
 らうてはくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 この姉のなにしあつりたるはよ敷むるまは
 くのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 つれにちかむるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 たよ敷むるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 よ敷むるまはよ敷むるまはよ敷むるまは
 えくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 らうてはくつろしゝのなにしあつりたるはよ敷むるまは
 けしむもちしこの姉れむもちよはしてありてはくつ

